

目標1株50莢！香り高いエダマメづくり

栽培のポイント

●根粒菌を働かせる！

株に養分(窒素)を補給してくれる、根粒菌の活躍を促すためには、第一に土づくり。また、MリンPKの元肥施用は根量を増やし、根粒菌の着生数が増えます。

●開花～子実肥大期の水分管理！

開花期に水分不足となると、莢の数が減り、実入りも悪くなります。開花期はMリンPKと共に水分も補給しましょう。乾燥傾向のときは必ずカン水してください。また、過湿も収量を低下させるので、風通しを良くしてください。



●栽培後半の栄養補給！

後半は根粒菌活性も低下し、栄養不足になりやすい。葉色が薄いようであれば、消化の良いアミノ酸態窒素を葉面から小まめに補給しましょう。

春夏作の施肥提案（1a＝30坪）

資材名	元肥	追肥① 土寄せ前、草丈 20cm	追肥② 開花直前～開花	追肥③ 子実肥大期
MリンPKマグ	4 kg	2～3 kg	3～4 kg	2～3 kg
バクヤーゼK	15 kg	—	—	—
NK化成	1 kg	1 kg	—	2 kg

葉色が濃いようなら
Pフォスタ 500倍液
葉面散布

密植や繁茂によりウネ間施肥が出来ない場合、
Pフォスタ 500倍液とリーフA液材 500倍液 の
混用葉面散布 10L を2～3回行う

根粒菌について

マメ科は根粒菌と共生し、窒素施肥量は少なくても良い認識があります。しかし、根粒菌活性には通気性が必要なため、マルチ栽培では活躍できません。また、硝酸を嫌うため窒素肥料が多いと休んでしまう性質があります。

最も養分が必要な開花期に根粒菌を活性させることが収量アップへの近道です。追肥は速効性の窒素肥料で、必ずMリンPKも併用してください。

